



Mitake
Sayaka
Salon

美竹清花さろん こけら落とし【第十夜】

佐藤彦大

サロンコンサート

-Piano-

2017年10月6日(金)

開場18:30 開演19:00 入場料4,000円/学生2,000円(全席自由席)



音色を確立した

（梅井時比古氏）

「彼は演奏家としての独自の

Profile

佐藤彦大(さとうひろお) 盛岡市出身。東京音楽大学大学院鍵盤楽器研究領域(ピアノ・エクセレンス)修了、ベルリン芸術大学及びチャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院において更なる研鑽を積む。2009-12年度ロームミュージックファンデーション、2013・15年度明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生。

2008年第17回国際音楽祭「ヤング・ブラハ」にソリストとして出演。2009年広上淳一指揮/東京音楽大学シンフォニーオーケストラのヨーロッパツアー、2012年小泉和裕指揮/仙台フィルハーモニー管弦楽団の東北ニューイヤーコンサートツアーにソリストとして同行。その他、大友直人指揮/東京交響楽団、小林研一郎指揮/日本フィルハーモニー交響楽団、広上淳一指揮/京都市交響楽団、L.ヴィオッティ指揮/ビルバオ交響楽団、V.P.ベレス指揮/テネリフェ交響楽団等、国内外の主要オーケストラと共演。室内楽ではNHK交響楽団首席メンバーをはじめ久保陽子(VI)、二村英仁(VI)の各氏等と共演している。

主要なリサイタルは2011年東京文化会館小ホール、2013年紀尾井ホール、2016年浜離宮朝日ホールにおいて開催され、各誌で好評を博した。またNHK-FM「名曲リサイタル」「リサイタル・ノヴァ」に出演。日本各地をはじめ、スペイン・ロシア・ドイツ・イタリア・フランス・チェコ・中国・台湾で演奏活動を行っている。

録音ではライブ・ノーツより2012年「Hiroo Sato plays 3 Sonatas」、2017年「Hiroo Sato Piano Recital」(レコード芸術準特選盤)の2枚のアルバムをリリースしている。

2017年9月より母校、東京音楽大学非常勤講師として後進の指導にあたる予定。

Program

*曲目・演奏順は変更になる場合がございます。

モーツァルト：デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲 ニ長調 K.573

モーツァルト：幻想曲 ニ短調 K.397

モーツァルト：ピアノ・ソナタ第8番 イ短調 K.310

ショパン：舟歌嬰ヘ長調 op.60

ショパン：前奏曲第15番 変ニ長調 op.28-15「雨だれ」

ショパン：3つの華麗なる円舞曲 op.34

ショパン：夜想曲第2番 op.9-2

ショパン：ポロネーズ第6番 変イ長調 op.53「英雄」

【受賞歴】

2004年第58回全日本学生音楽コンクール高校の部全国大会第1位、併せて野村賞・都築音楽賞受賞。

2006年第1回野島聡・よこすかピアノコンクール第1位。

2007年第76回日本音楽コンクール第1位、併せて野村賞・井口賞・河合賞受賞。

2010年第4回仙台国際音楽コンクール第3位。

2011年第5回サン・ニコラ・ディ・パヴァーリ国際ピアノコンクール第1位、併せてF.リスト2011特別賞・批評家賞受賞(イタリア)。

2015年第21回カルド・ピニェス国際ピアノコンクール第2位(スペイン)

2015年第36回霧島国際音楽祭賞受賞。

2016年第62回マリア・カナルス・パルセロナ国際音楽コンクール第1位、併せて増泉賞・グラナダス賞受賞(スペイン)。



●ご予約/
お問い合わせ
株式会社ILA 070-2168-8484
(美竹清花さろん) 03-6452-6711

Webサイトからでもお申し込みいただけます。 <http://goo.gl/XkdcCt>

美竹清花さろん こけら落とし【第十夜】

佐藤彦大サロンコンサート

2017年10月6日(金) 開場 18:30 開演 19:00
入場料4,000円／学生2,000円(全席自由席)

まさに「我が意を得たり」の佐藤彦大評

音楽評論家でもある梅津時比古桐朋学園大学学長が、佐藤彦大さんの演奏に関して、まさに「我が意を得たり」のように、以下のように毎日新聞に寄せています。

日本音楽コンクール優勝から9年、スペインのマリア・カナルス国際コンクールで1位を得た佐藤彦大がリサイタルを開いた(6日、浜離宮朝日ホール)。

久しぶりに聴く佐藤の音色の変化に驚かされた。第一曲、ラフマニノフ《コレルリの主題による変奏曲》冒頭の主題提示を、佐藤は、極めてやわらかい、脱力しきった音でひそやかに響かせる。まるで、窓を控えめに開けてそっと世界をのぞくように、そして見えた世界の不思議に驚くように。その後、音のやわらかさは神秘的なベールとなり、その中で、各声部がはつきりと浮かび上がる。しかも声部は分離することなく作品の核に常に溶け込んでゆく。それはテクニクが炸裂(さくれつ)する快速の流れになっても揺るがない。そのため、不安と夢に打ち震えるラフマニノフの感性がこまやかに描かれ、やがて祈りに昇華してゆく。

続いてラヴェル《亡き王女のためのパヴァーヌ》。ここに小品を組み込むプログラミングに驚いたが、佐藤が獲得した、核を持ちながらも柔らかさを極めた音色によって、この曲が品性のある悲しみとして、外面的な衣装を脱ぎ、美しく伝わってくる。選曲の意図が分かった。彼は演奏家としての独自の音色を確立したと言っている。

後半のシューベルト《ピアノ・ソナタ第14番イ短調》にも無論、この音色は最大限に生き、息をひそめて世界を見つめるシューベルトの繊細さが感じられる。一方、それに対抗するシューベルト特有のデモーニッシュな音に関しても、十分にその志向性が見てとれる。リストによるシューベルトの歌曲の編曲、《糸を紡ぐグレートヒェン》《魔王》に関しては、さらに複層的な表現が可能なのではないだろうか。また最後のリスト《メフィスト・ワルツ第1番「村の居酒屋での踊り」》では、かつての佐藤の、生のピアノの音が顔を出してしまったところもある。佐藤が新たに獲得した音色の魅力を、今後も聴き続けたいという思いを強く抱いた。

【特別編集委員 梅津時比古】

いささか引用が長くなりましたが、ここでは、プログラムにはなかったので当然ですが、モーツァルトについてはまったくふれていません。わたしが個人的に彼の演奏で、特別に聴いて欲しいのは、まずモーツァルトです。先日、美竹清花さろんにいらっしやった佐藤彦大さんが弾いたモーツァルトのイ短調ソナタ！ かつて、バレンボイムと、サバリツシユのモーツァルトのライブを聴いたことのあるわたしですが、そのときの演奏を凌ぐすばらしいモーツァルトでした。こんなモーツァルトは聴いたことがない、それほどすばらしい音、そして響きでした。皆さん、この機会を逃さず、佐藤彦大さんの演奏を聴きにいらしてください。

(渡辺公夫)



世界に通用する才能溢れる
若手トップアーティストが
続々と集結！

大ホールのプラチナ席をしのご
生演奏の醍醐味、
一期一会で味わう圧倒的な臨在感。

日本のトップクラスの若手演奏家が、こだわり抜いた企画をお届けします。

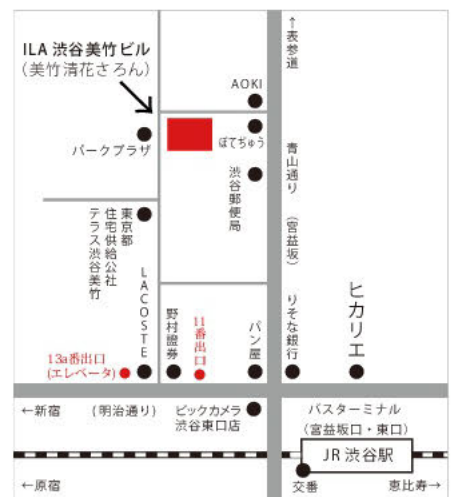
美竹清花さろんでは、演奏レベルの高さにこだわった

“本物の音楽”を追求します。

歓談や飲食を通じた、

演奏者の人柄にふれる楽しさにも注目です。

誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社ILA (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷 1-12-8 (〒150-0002)

☎ 070-2168-8484 / 03-6452-6711

Fax 03 (3409) 0188